

受験者・合格者の属性

受験者（志願者）層及び合格者（入学者）層の分析については、各大学とも基礎的資料に関して継続的に調査を続けている様であるが、その結果については昨年度と大差なく同様の傾向にあるといえよう。

受験者（志願者）の増減については、ほぼ例年並である大学（秋田大学）から、増加の傾向を示した大学（岩手大学、埼玉大学、熊本大学など）、また逆に昨年よりも減少した大学（高知医科大学）もあって、全国的には一律ではない。しかしなかには選抜試験の多様化によって志願者数の増加をはかるといふ選抜法改善のねらいの一つは一度達成されたと報告した大学もあった（滋賀大学）。

入学辞退者については、辞退率が高かった傾向は、昨年と同様であり。大学の多く集中している首都圏に所在する大学に多いが、大学によっては遠隔地出身者による辞退が増加している（大阪大学、和歌山大学、香川大学）ことが報告されている。また逆に減少傾向あるいは例年並みの傾向を示している大学もあった（神戸商船大学、熊本大学）。辞退者の追跡調査の結果によると辞退後の進路は私立大学への進学が多いようであるとの報告もあった（横浜国立大学）。又、入学辞退者の年次比較では、例年よりも増加の傾向にあるという報告もあった。

1次志望者と2次志望者の比較については、入学者からのアンケート調査によると併願学部

の選抜傾向は一定しなかったと報告され（山梨大学）又、合格に対する「満足度」のアンケート調査では、志望度と合格満足度は強い相関があると報告されている（岡山大学）。

第1次募集学生と第2次募集学生の比較については、第2次募集（定員留保）が各大学において行われているが、受験者数は増加の傾向を示し、又、浪人の占める比率も高くなっており、出身地は広い分布を示していることが報告され（九州工業大学、長崎大学）、第2次募集受験者の辞退は顕著であったとの報告もされている（滋賀大学、香川大学、佐賀大学）。又、なかには第2次募集による受験者には共通1次の成績が従来より高い者が合格したとの報告もある（神戸商船大学）。

男女の比較については、受験者、合格者に占める割合は文系の大学、学部に於いては女子の増加傾向が高くなっており（旭川医科大学、埼玉大学、大阪大学、香川大学、熊本大学）平均入学序列も女子が若干優位となっているとの報告があった。

出身都道府県別による比較については、多くの大学で調査が行われているが、受験者、合格者ともに地元指向が数年来持続されている大学、又、それと逆の報告がされている大学（旭川医科大学、電気通信大学、横浜国立大学、大阪大学）もあった。受験生が大学を選択する際に、地元、近県といった地理的要因がかなりのウエ

イトを持つとの報告もあった（大学入試センター）。又、地域別に国立大学合格者のシェアを計算し、その年度変化を比較して、ジニ係数によってその値を示し（大学入試センター）各県の受験者が47都道府県に何%ずつ志願したのか、その比率を変換してクラスター分析が行われているとの報告がなされている（大学入試センター）。

現役と浪人の比較についても、種々の角度から各大学において調査されており、受験者、合格者に占める現役、浪人比は従来と大きな変化はみられないが（電気通信大学、静岡大学、熊本大学）現役が増加している大学（埼玉大学、横浜国立大学）もあり、逆に浪人が増加の傾向にあるとされた大学（旭川医科大学、東京医科大学、一橋大学、香川医科大学）また、現役＞1浪＞2浪以上と報告された大学もあった

（大阪大学）。

大学の学部、学科、専攻等類型別の比較については、各学部系統の性格によって、受験生の地理的志願動向にはかなりの差異がみられたと報告され、また各学部系統がない県の受験生は共通して二つの志願動向をみせたとの報告があった（大学入試センター）。

出身校による比較については、国立大学の合格者がどのような高校の出身者で占められているか、各高校の1校当たりの志願者数、合格者数を基礎データとして分析を行い、ジニ係数の変化などにより東西の受験体制にかなりの違いがみとめられたと報告されている（大学入試センター）。また1高校からの合格者数等をジニ係数により表すことが試みられたとの報告があった。